【総括表】

用途	資料館

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	松平郷館	松平町	大規模修繕	
2	足助資料館	足助町	現状維持	
3	藤岡民俗資料館	藤岡飯野町	現状維持	登録文化財
4	足助中馬館	足助町	現状維持	指定文化財
5	旭郷土資料館	浅谷町	現状維持	
6	稲武郷土資料館	黒田町	現状維持	

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

原則、目標使用年数は 57 年以上とする。

4　対策の優先順位の考え方

各資料館における対策の実施にあたっては、施設の劣化状況や点検・診断結果を踏まえ、財政負担の平準化等も考慮しながら、計画的に行うものとする。特に、足助中馬館、藤岡民俗資料館は、文化財として重要な建物であり、優先的に修繕等を実施する。

また、今後は、施設を維持するのみではなく、集客性を高めるための各資料館の展示機能の充実等や、管理運営の効率化を、費用対効果を踏まえながら検討する必要がある。

【個別表】

1	施設名	松平郷館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	松平町	延床面積	154.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
松平郷館	W 造	1985	154.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
松平郷館は、松平地区の歴史資料を展示する施設。建築後３０年以上経過し、床や手摺部分に腐れが認められる。内装も壁紙の劣化が目立つようになったため、取替を予定。 森の中にあるため、落ち葉等が屋根に堆積することが多く、日常的に点検や対策が必要である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
（現在の導入状況） 施設の管理は市が行い、運営は地元住民で構成する「松平ふるさとづくり委員会」に委託。

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあっては、省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	足助資料館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	足助町	延床面積	499.17 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
足助資料館	RC 造	1923	499.17	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
足助資料館は、愛知県蚕業取締所を改築し、郷土資料の展示を行っている。大正期の建造物のため、老朽化が激しく、その都度修繕を行っている。壁の構造等はＲＣ造だが、屋根の構造は木造。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	藤岡民俗資料館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	藤岡飯野町	延床面積	582.17 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
藤岡民俗資料館	W 造	1954	360.13	1 階	国登録文化財
倉庫	LWS 造	1996	162.00	1 階	
交流館横倉庫	LWS 造	1990	32.45	1 階	
水車小屋	W 造	1983	27.59	1 階	展示施設

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
藤岡民俗資料館は、廃校を改築し、郷土資料の展示を行っている。国の登録文化財であり、予防保全ではなく、修繕対応で維持管理を行っている。昭和初期の建造物のため、老朽化が激しく、その都度修繕を行っている。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

	□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	藤岡交流館の解体に伴い、交流館横倉庫は取壊す予定 省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

4	施設名	足助中馬館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	足助町	延床面積	148.91 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
足助中馬館	W 造(RC 造)	1985	148.91	1 階	（金庫室 13.22 ㎡）

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
足助中馬館は、大正期に建てられた銀行を改修して資料館として利用。外壁は漆喰、屋根は瓦葺き。 県指定文化財のため、工事・修繕等を行うには、現状変更許可が必要となる。 ※平成３０年度に外壁クラック修繕済み

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

5	施設名	旭郷土資料館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	浅谷町	延床面積	814.93 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
旭郷土資料館	W 造	1950	699.00	1 階	
倉庫（事務室）	W 造	1965	115.93	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
旭郷土資料館は、昭和初期に建てられた中学校を改修して資料館として利用。建築後７０年が経過し、老朽化しており、特に倉庫の屋根については激しい劣化がみられる。 ※玄関漆喰修繕済

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

6	施設名	稲武郷土資料館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	黒田町	延床面積	546.79 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
稲武郷土資料館	W 造	2003	427.55	1 階	
倉庫	W 造	1991	119.24	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
稲武郷土資料館は、国道１５３沿いに位置し来場者も多い。商業施設も隣接し、観光資源として重要な施設である。 現状では劣化等の不具合は認められない。 ※施設裏水路修繕を実施済み

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化を図り維持管理費用（ランニングコスト）の削減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。